

抗議声明

大阪府警公安三課による事実無根の不当弾圧に断固抗議します！

5月2日、大阪府警公安三課は米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会／近畿連絡会に参加する団体・個人の事務所や個人の自宅など16カ所への強制捜索を一斉に行いました。事務所5カ所、個人宅など11カ所におよぶ大規模な弾圧です（現在までのところ逮捕者は出ていませんが、予断を許しません。）

大阪府警は被疑者を「××ほか二名」とし、捜索の容疑を「詐欺容疑」としていますが、まったくの事実無根です。そもそも、いつのどのような行為が「詐欺」にあたるのか、「ほか二名」が誰なのかさえも具体的に明らかにされていないのです。このような強制捜索は、大阪府警が何と言おうとも違法なものであり、押収したすべての物品はただちに返却されるべきです。私たちは、このあからさまな不当な弾圧を徹底して弾劾し、弾圧がさらに拡大していくことを絶対に許さない闘いを断固進めていきます。

今回の弾圧の主要な性格は、昨年6月4日～5日の「道路運送法違反容疑」での不当逮捕・不当弾圧（その後不起訴処分）に引き続き、米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会／近畿連絡会を標的にした弾圧だと推測できます。その狙いは、弾圧によって運動を委縮させ、現地の住民との間を分断しようとするにありと私たちは捉えています。米軍Xバンドレーダー基地反対運動は、新しく立ちあがった反基地運動ですが、地元住民と結びつき、現地闘争を軸に近畿・全国からの結集によって闘い続けられてきました。そして、沖縄・辺野古をはじめ全国の反基地運動、さらに韓国の反基地運動との国際連帯をも推進してきました。きたる6月5日には京丹後現地総決起集会（主催・実行委員会）を予定しています。

国家権力は、東アジアにおける米国のミサイル防衛(MD)システムの要であり、日米軍事一体化の象徴でもある京丹後の米軍Xバンドレーダー基地に対する反対運動がさらに発展することを恐れ、THAADミサイルの日本配備をも展望して、この反基地運動をおしつぶそうとしているのです。しかし、京都連絡会／近畿連絡会の闘いは、非暴力直接行動として取り組まれ、権力につけるスキを与えてきませんでした。そのために大阪府警公安三課は、昨年は「道路運送法違反容疑」、今回は詳細不明の「詐欺容疑」なるものをねつ造して弾圧を加えてきたのです。私たちは無実であり、事実無根のこの不当弾圧を絶対に許すことはできません。また、今回の弾圧は伊勢志摩サミットの直前であることや押収物から、サミット反対運動への事前弾圧という性格もあわせ持つものと推測できます。

不当な弾圧に対して、米軍Xバンドレーダー基地反対京都連絡会／近畿連絡会は、弾圧を受けた当該として先頭に立ち、正面から断固とした反撃を組織していきます。一人でも多くの人々が弾圧に怒り、声をあげ、立ちあがっていくならば、権力がこれ以上弾圧を維持し、拡大していくこともできなくなります。5月12日の緊急の反弾圧集会への皆さんの参加を呼びかけます。そして、6・5京丹後総決起集会を多くの人々の結集で大成功させ、大阪府警のもくろみを共に打ち砕いていこうではありませんか。東アジアの平和につながる反基地運動の前進を共に切り拓いていきましょう。

2016年5月5日

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会